

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873600369
法人名	株式会社 むらかみ
事業所名	グループホーム やまと
所在地	愛媛県大洲市長浜町下須戒13番地 8
自己評価作成日	平成24年10月1日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

できるだけ家庭での生活に近づけ、理念である「明るく、楽しく穏やかに」を日々展開できるように取り組んでいます。職員は認知症ケアの向上に研修や資格取得に前向きに取り組み、利用者の方が「グループホームやまとで暮らせてよかった。この人（職員）たちに出会えてよかった」と思っていたけよう一緒に生活しています。また、いざという時の協力や、季節の行事に地域の方の強力な支援もあり地域住民としても安心して生活ができるホームになりつつあります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年10月15日

●近くの小学校の4年生が、総合学習の時間に、趣向を凝らし訪問してくれることが恒例になっており、利用者の楽しみにもなっている。事前に、担任の先生が打ち合わせに来られる。これまでは、お手玉や折り紙、クイズや劇等をして楽しませてくれた。今年は、子ども達が利用者の似顔絵を描いてくれて、利用者はたいへん喜ばれた。そのような交流から利用者子ども達は、顔見知りになっており、登下校時には、元気に挨拶をしてくれたり、遊びに来て利用者を笑顔で「明るく」してくれている。又、利用者は、子どもやお孫さんの子守りをしているような感覚にもなられるようだ。事業所横の畑には、法人代表者が畑を作っており、近所の方のアドバイスを受けながら世話した野菜が実り、さつま芋は、近くの保育園児に掘ってもらうことになっている。昨年、地域の「太陽の広場」の催しごとが行われた際には、利用者が参加しやすいよう、公民館長が事前に「テントがあった方がいいか」「餅まきは、利用者の分は袋に入れて届けようか」等、気遣って聞いてくださり、「利用者も地域の方達と一緒に餅まきに参加したい」ことを伝えられた。

### V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. <b>家族の2/3くらい</b> 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. <b>たまに</b> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. <b>少しずつ増えている</b> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. <b>職員の2/3くらいが</b> 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. <b>家族等の2/3くらいが</b> 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム やまと

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

畑中 智子

評価完了日

24 年 10 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「明るく、楽しく、穏やかに」を理念に掲げている。毎年事業計画を職員全員に配布し理念に添った介護方針、介護計画を具体的に記し確認している。 (外部評価) 事業所では、「明るく、楽しく、穏やかに」という理念について、利用者が何をもち「明るい」というのか、「楽しい」というのか、具体的に考えたり、話し合っケアにつなげていこうとされている。又、職員は、理念を念頭に置き、照らし合わせながらケアに取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ホームの活動をオープンにし、地域の方がそれぞれの自治会の中での役割の範囲で関わりを持っていただいている。又地域活動には職員も参加し顔見知りの関係が出来ている。そのためか学校行事、地域行事への参加呼びかけも多い。 (外部評価) 近くの小学校の4年生が、総合学習の時間に、趣向を凝らし訪問してくれることが恒例になっており、利用者の楽しみにもなっている。事前に、担任の先生が打ち合わせに来られる。これまでは、お手玉や折り紙、クイズや劇等をして楽しませてくれた。今年は、子ども達が利用者の似顔絵を描いてくれて、利用者はいへん喜ばれた。そのような交流から利用者子ども達は、顔見知りになっており、登下校時には、元気に挨拶をしてくれたり、遊びに来て利用者を笑顔で「明るく」してくれている。又、利用者は、子どもやお孫さんの子守りをしているような感覚にもなられるようだ。事業所横の畑には、法人代表者が畑を作っており、近所の方のアドバイスを受けながら世話した野菜が実り、さつまいもは、近くの保育園児に掘ってもらうことになっている。昨年、地域の「太陽の広場」の催しごとが行われた際には、利用者が参加しやすいよう、公民館長が事前に「テントがあった方がいいか」「餅まきは、利用者の分は袋に入れて届けようか」等、気遣って聞いてくださり、「利用者も地域の方達と一緒に餅まきに参加したい」ことを伝えられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 公民館や、団体から依頼があれば介護や認知症ケアの話を見せていただいている。入居に関わらず認知症ケアの相談、介護相談も行っている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 年6回開催。公民館館長さん、小学校校長先生、民生委員さん、お隣さんが構成員になって頂いているので地域情報の交換が主にされている。地域行事に車椅子の方が参加しやすいように、又お年寄りが参加しやすいように配慮していただいている。</p> <p><b>(外部評価)</b> ご家族には、事業所から送付する書類に会議案内状を同封し、都合のつく方が出席してくださっている。「こういう話し合いがあるので安心する」と、感想を話してくださるご家族もあるようだ。公民館長は、地域行事後には、「利用者にとってよかったか?」「車いすでも大丈夫だったか?」と、感想や意見を聞いてくださり、館長は、「ホームの方が参加しやすい状況なら、地域の方も参加しやすいという目安になる」と話してくださっている。管理者は、地域との関係について、「事業所のつきあい」というより、「地域の一員として認めてくださっている」ことを感じておられた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p><b>(自己評価)</b> 運営推進会議に参加していただいているので定期的に話をする事ができる。又、市内のグループホームの連絡会ができて包括支援センターの方が事務局になって協力していただいている。</p> <p><b>(外部評価)</b> ケアに困ったような事例があった場合は、地域包括支援センターに相談に出向き、支援の経過も見守ってもらうようにされている。地域包括支援センターが事務局を引き受けてくださり、市内のグループホーム9事業所で連絡会を立ち上げられた。これからは、他市町の取り組み等を参考にして、有意義な集まりにしたいと考えておられた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p><b>(自己評価)</b> 身体拘束についての研修に職員が参加し、伝達研修のかたちを取って伝えている。新人職員が増えたので更なる意識付けの勉強会が必要と感じているので年次計画の中で勉強会の開催を予定している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 職員は、内・外部研修を受け、身体拘束について学んでおられるが、管理者は、「新人職員には、さらに具体的に伝えていきたい」と話しておられた。管理者は、「職員の言葉が拘束になることもある」ことを職員に繰り返し話しておられ、意識付けをされている。一人で出かけて行こうとする利用者については、「出かけようとする理由」を知ることから取り組もうとされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ケアカンファレンスにて介護上で注意しなければならないことをお互いに伝え合っている。利用者、家族の方も職員も余裕がないと良好な関係が保てないので、その点を注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修の参加にて知識を得ているが現在利用されている方、必要と思われる方が居ない。今後、必要時には活用の支援が出きるように準備はしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の前に十分な時間を取り家族、本人に対し説明を行い、その上で入居の意向を固めていただいている。入居前の経緯なども家族から情報を得、家族、利用者が入居後の生活が思い描けるよう説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に個別に意見、要望を聞き取っているが、出された意見、要望は少ない。外部評価機関から頂く家族アンケートを参考にケア・業務カンファレンスなどの時間に改善点について話し合いを持っている。 (外部評価) ご家族の来訪時、職員は、できるだけ利用者のご家族の時間を邪魔しないよう、心がけておられる。事業所では、利用者それぞれに担当職員を配置しておられ、ご家族とのやりとりについても窓口が明確になっていることで、ご家族も相談等しやすいようである。	事業所では、ご家族の「お世話になっている」という心情からも、「意見が言えないご家族もあるのではないか」と感じておられる。今後も、事業所側から積極的にご家族の声を集めるような取り組みをすすめていかれてほしい。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回会議を行っている。業務、運営、職場環境について提案できる機会を設けている。又会議以外でも必要であれば意見交換を行い、できるだけ早期の実現に取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員会議や業務カンファレンス時に、職員から意見を出したり提案する機会があるが、日々のケアの中でも、アイデアや提案があれば、その都度、管理者と相談されている。管理者は、職員に「やってみる」ことをすすめておられ、その結果で、継続したり改善したりして、職員の意見や提案を運営に反映できるよう取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員が働きやすいようにと考えながら少しずつ改善を行っている。職員が意見しやすい雰囲気を作ってもらっている。職員の定着率がさらによくなるように準備している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年次計画を立て総合的に人材育成に取り組んでいる。日々の介護や、記録、研修後の報告と実践を中心に職員の状況を見ている。その上で必要な研修に参加できるよう支援している。又自主的な学習の機会が得られるように研修情報は回覧などで周知している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着サービス協会が行っている「相互研修」に参加している。お互いのホームに出向き「気付き」を情報交換しホーム内の活動の参考にしている。市内グループホーム連絡会ができたので情報交換などの機会も増えている。	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前のアセスメント時に出きるだけ家族の思いや、本人の思いを聞き取っている。入居後は担当職員を中心として個別の関係ができ安心の材料を増やしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居後家族が利用者の方との関係が改善されたり更に良好になったり出きるように、担当職員が仲介している。出きるだけ担当職員は変更せずに家族が話しやすい状況を作っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメント、在宅時のケアマネジャーさんからの情報提供にて柔軟に対応している。家族面談などで必要に応じ他サービス(特別養護老人ホームなど)の利用について検討し、申し込みの代行や、情報提供を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 認知症のために失った生活動作を支援する事を中心にケアを行っている。利用者の方のこれまでの生活を知り価値観を理解する事で、出きるだけ利用者の方のこれまでの姿に近づけるように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方には、少し先の将来を予測しながら、何が利用者の方にとって最善なのかを職員と共に、考えていただいている。又家族としての役割が追行できるよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 長く付き合ってきた主治医を変えることなく定期的に受診するとそこでの人間関係が途切れることなく続いている。又機会があればドライブのコースに馴染みの場所を加えたりしている。 (外部評価) ご自宅近くの医療機関を受診した際、友人に会ったことがきっかけで、事業所に訪ねて来てくださるようになったこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆が集まって雑談や歌を歌って楽しんだりする中で利用者の方がお互いに認め合うような声かけ仲介をしている。今後ゆったりと皆が集まれる時間を増やして行きたい。利用者の方の状況から席順を配慮したりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院退居の場合などは生活の場(老健・特養)への移動まで家族の理解を得ながら状況を確認を行っている。又、必要に応じて家族の相談にも対応し出きる限りの支援を行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を使い情報収集し更に本人の意思の聞き取り、表現が困難な方は仕草、言動などから思いを汲み取っている。本人の思いが暮らしのなかで発揮できるようにケアカンファレンスで検討している。 (外部評価) 入居時、センター方式の「暮らしの情報」をご家族に記入していただき、「錠剤は砕いて口に入れる」「朝はぬれタオルを手に渡すと顔を拭ける」「整容に関心がない」「タオルケットなら畳める」等の情報を参考にして、ご自宅での生活の習慣等が続けられるように支援されている。又、入居後に職員が得た情報やご家族・知人から得た情報は、記入日で色分けして追記されており、現在の状態がわかるように工夫されている。利用者の気持ちや顔をできるだけ正確に理解できるよう、ご家族等の呼び方や顔が分かるよう取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を使い情報収集し、更に家族、兄弟、知人の面会時に聞き取りを行っている。入居前には担当ケアマネジャーさんより発症から入居までの経過を情報提供していた。民生委員さんからは地域の様子なども情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 「活動表」、「介護記録」、「センター方式の様式」、モニタリング表を整理しながら状況の把握に努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)  ケア上の気づき、記録の整理、アセスメント、家族からの希望を聞き取り、ケアプランを作成している。受診支援の際に主治医からの助言は伺いケアに活かしている。	
			(外部評価)  担当職員からの気づきや意見をもとに、ケアマニュアルに沿って介護計画を立てておられる。ご家族へは、支援の根拠を示しながら説明できるよう取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)  記録の記入の際の視点を確認したり情報が共有されるように工夫している。又個別記録は2~3ヶ月で担当者がまとめて、ケアカンファレンス時に全職員に周知し検討している。	
			(外部評価)	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)  過去には介護タクシー、マッサージなど状況に応じ、家族、本人と話し合いサービスの調整を行った。現在は、介護相談、通院介助等行っている。	
			(外部評価)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)  自治会、公民館、小学校などの協力から災害時の避難の協力、地域の季節行事、世代間の交流などができている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 在宅時の主治医を引き継いでいる。受診時は職員が付き添い支援している。できるだけ決まった職員が受診支援する事で主治医との関係が築き易い。	
			(外部評価) 利用者は、以前からのかかりつけ医に継続して診てもらっており、主治医と連携できるように職員が同行されている。検査や判断を必要とする場合には、ご家族にも一緒に説明を聞いてもらえるよう、連絡をされている。利用者が通院することが難しくなった場合は、「看取り」を想定し、ご家族と往診が可能な主治医への変更を検討されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 受診時に付き添う職員は日々の生活の状況や前回の受診からの変化、又カンファレンスで出された医療的な相談について主治医に報告している。主治医からの助言があれば記録に残し情報を共有している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には入院の準備家族への説明などを行い、できるだけ家族、本人が安心して治療ができるよう支援している。又病状を共に聞かせて頂き、早期退院が望めるのか確認している。入院中も入院先に出向き状況を把握している。病院側からの要請があれば家族の了解の元情報提供を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に大まかな希望は聞き取っている。本人の状態の変化から都度家族の意向確認している。ホームの環境から看取りについては制約も多いことから一つ一つ説明し納得を得た上で進めている。	
			(外部評価) 事業所では、1月に、看取りを支援した事例がある。ご家族から、「本人が元気な時に人工呼吸器なんか付けたくないと言っていた」ということとお聞きして、利用者、ご家族、事業所で話し合い、方針を決めて主治医にも個々の思いを理解いただけて、協力し合って支援された。事業所では、痛みの緩和や食事ができない時には口元を湿らす等してケアされ、終末期には、利用者のかかりつけ医と2時間ごとに連絡を取り、医師も毎日往診に来てくださり、連携して看取られた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当など救急車が到着するまでの対応などをマニュアルにしている。消防署立会いの避難訓練の際には応急手当の指導もいただいている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ホーム内では年2回、想定をかえて実施。自治防災の呼びかけから地域全体の避難訓練にも参加し意識を高めている。又地域の防災組織の活動が活発な地域であり組織的に災害時の支援、協力が得られるように配慮していただいている。 (外部評価) 法人代表者は、防災士の資格を持ち、地域防災会議にも参加されている。地域で行われる大がかりな炊き出しや津波を想定した高台への避難訓練等にも参加され、事業所も地域の一員として取り組まれている。事業所独自でも、火災・地震の昼・夜間想定で、避難訓練を実施されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個別の話は各居室であったり、落ち着いて話せる場所を選んだりしている。声かけのトーンやタイミングにも配慮している。本人の能力を最大限に発揮できるように支援する事で個人を尊重したり、プライドに配慮した対応に繋がると考え日々ケアに当たっている。 (外部評価) 外出先で知人に会った際、利用者の現在の居場所や様子等についての相手からの質問には、利用者の了解を得てから、職員が代弁されている。事業所内では、一人ひとりの人格を尊重した対応を心がけておられるが、職員の言葉かけで気になった場合は、職員同士で注意し合っておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 些細なことでも本人の意思を確認している。選択の範囲を狭める工夫している。外食などの機会では時間も充分と選ぶ事の楽しさを得ることを目的としたりして機会を増やしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	現在は食事時間と入浴の時間帯が概ね決まっているが本人の意思において時間の制約はしていない。(医療的指示、危険行為以外)	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	本人に選んでいただいたり、持ち込んだ衣類の範囲で配慮している。服を通し日常生活に意欲が持てるように声掛けを行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	献立の説明や季節の食べ物などの話題から食についての関心を引き出している。雰囲気、食事の形態に配慮している。準備、片付けを通し職員と共にする事で話題が繋がっていく。	
			(外部評価)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	日々の記録から摂取量がすぐに分かるようになっている。家族からの情報等を元にカンファレンスで検討し支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	毎食後ではないが状態に応じ支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 記録から排泄パターンが把握できる。又排泄のサインなども読み取り出きるだけトイレでの排泄につなげている。	
			(外部評価) 排泄パターンの記録を参考に、必要に応じてトイレ誘導やパッド交換をされている。又、立ったり座ったり落ち着かない様子があれば、職員は、「トイレに行きたのでは」と、尋ねるようにされている。夜間は、声をかけてご本人が起きる場合のみ、トイレにお連れしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分が充分取れるよう工夫している。排便の周期が崩れないようにトイレ誘導をしマッサージなどもしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望の時間が有れば優先できるよう調整している。入浴をしたがらない方についてはカンファレンスで職員全員でその原因を分析し対応している。	
			(外部評価) 夏場は、ご本人の希望で毎日シャワーを浴びる方もおられるが、だいたい1日おきの入浴となっている。入浴を拒む利用者には無理強いせず、日を替え支援されている。又、数日間入浴していないような場合には、職員は、少し積極的に声かけて入浴につなげておられる。管理者は、「入浴を拒む利用者の気持ち」の理解にも努めたいと考えておられた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 時間、照明、空調、音に配慮している。干した布団で気持ちよく休めるように配慮している。日中の関わりにも大きく左右するので日中の活動・支援にも配慮している	
			(外部評価)	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 「薬説明書」ファイルを作成いつでも確認できるようにしている。処方の変更があった時は服薬後の状態の変化を観察し医師に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 行事の計画、準備から共につくりあげています。又日々の言動からその行動の意味を探り役割として受け入れ継続、追行できるように支援している。普段の会話他者との交流など日々の細かな楽しみを大切にしていきたいと考えている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月1回の「お参り」、散歩など家族の方との外出が主ですが、外食、花見、野外食など行事としても外に出る機会は増やしている。	
			(外部評価) 事業所は、住宅街の一角にあり、利用者をご自分で散歩に出かけて帰って来られる場合には、職員は、時間等も見ながら待つようにされている。近所に店がないため、買い物には車で出かけられている。	利用者の行きたい場所や懐かしい場所の情報収集にも取り組み、利用者個々が出かけて楽しめるような機会を増やしていかれてほしい。又、利用者と地域資源をつなげ、利用者個々の地域での暮らしの拡がりに向けても支援していかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在は通帳の管理をしたいとの希望で支援している。支払の代行、金融機関への連絡など本人の能力を測りつつ支援している。又地域での行事の際は買い物が楽しめるようにしている。(地域柄近所にスーパー等の店がない為日常的な買い物が困難な為)	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自ら手紙などは書きたがらないのでホームから家族の方に声をかけて電話をしていただいたりして取り次いだりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ゆったりと落ちついた雰囲気になるよう心がけている。特に「音」については落ち着かなくなる大きな要因でもあるのでテレビ、音楽などは配慮している。皆が集まる(多くの時間を過ごす)リビングは窓が多く風景から季節の移り変わりも感じてもらえていると思う。	
			(外部評価) 玄関を入ると吹き抜けになっており、天窓からの自然光の下には、テーブルとソファが置かれている。正面には、小学生が描いた利用者の似顔絵が並べて飾られていた。2階の居間からは、周囲の山や事業所の畑の様子が眺められる。台所とテーブル席の間に、ソファが向かい合わせに置かれてあり、食後、利用者の団欒の場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホーム内にはソファや椅子を置き、お気に入りの場所をそれぞれ作られている。一人になりたい時や家族との時間を楽しんでいただきたい時は居室にて過ごしていただいている。	
			(外部評価) 居室は、「利用者ごと家族の空間」と考え、レイアウト等も任せておられる。車いすで移動する利用者は、ご自分で衣類を出し入れできる場所に、タンスを置いておられる。ベッドからの転落や転倒が心配される方は、床にマットレスと布団を敷いて休まれている。今年の敬老会には、担当職員から、「利用者を漢字一文字で表した書」を記念品として贈られた。信心深い利用者の方には、職員から「信」の文字を贈っておられた。ご本人は前を通るたびに手を合わせておられる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ソファ、寝具、家具等で、できる限りこれまで使用していたものを持ち込んでいただいている。	
			(外部評価) 居室は、「利用者ごと家族の空間」と考え、レイアウト等も任せておられる。車いすで移動する利用者は、ご自分で衣類を出し入れできる場所に、タンスを置いておられる。ベッドからの転落や転倒が心配される方は、床にマットレスと布団を敷いて休まれている。今年の敬老会には、担当職員から、「利用者を漢字一文字で表した書」を記念品として贈られた。信心深い利用者の方には、職員から「信」の文字を贈っておられた。ご本人は前を通るたびに手を合わせておられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 「どうしたらできるか」、「何処まで、できるのか」をケアカンファレンス時に話し合いアイデアを出し合ってる。又職員間の情報共有も細かくしており利用者の方の変化に敏感に対応できるようにしている。	
			(外部評価)	